

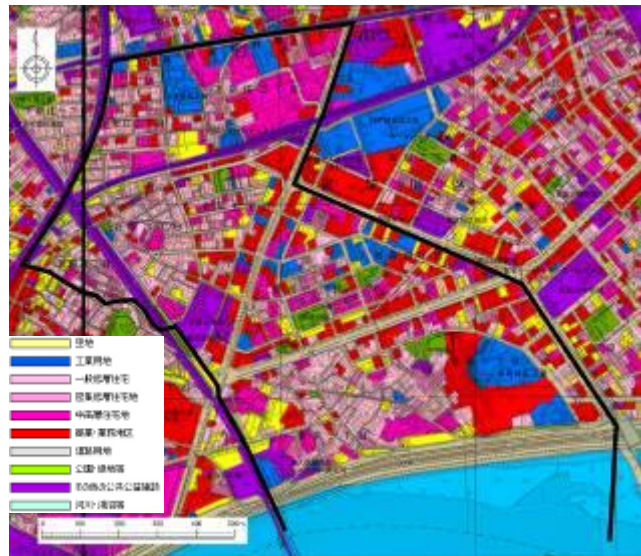
図 土地利用図

(2)土地利用

本地域の土地利用は、住宅地が広がり、教育機関などの公共施設や商業・業務施設などが点在している。全体に一般低層住宅が多く、北東部などには、中高層住宅が分布している。

商業業務施設は中部や南東部などに分布している。

学校などの公共施設は中西部などに、公園は小規模なものが点在している。



資料) 国土地理院

図 道路網図

(3)道路網

本地域の幹線道路は、中部を北東南西方向や東西方向などに通っている。

区画道路は、一般の生活道路で、乗用車の対向が可能な幅員の道路で、中部や西部などにみられる。

狭隘道路や行止り道路は、乗用車の対向がしにくい、できない道路であり、また、袋小路となった行止りの道路で、西部、南部などにみられる。



作図) ランドシステム研究所、岡本

図 外水氾濫予測図(淀川)

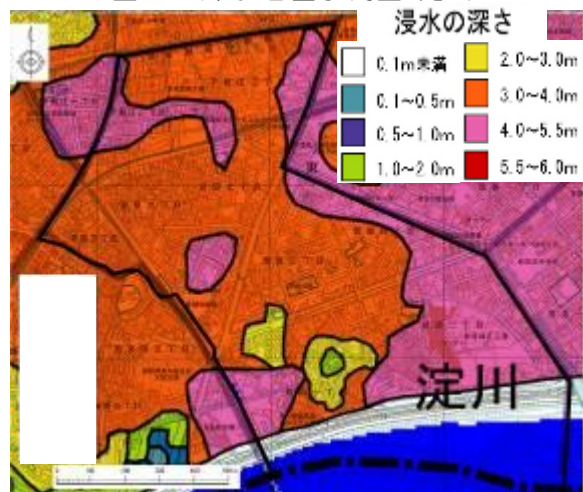
2-4.災害予測

(1)水害予測

①淀川外水氾濫

淀川の外水氾濫予測図によれば、本地域での浸水深の最大は4.0m～5.5mで、この区域は南東部などにみられ、中部では3m～4mの浸水深で、一部では2m～3m、1m～2mとなっている。

収容避難所である菅原小学校は、1階まで浸水する予測である。



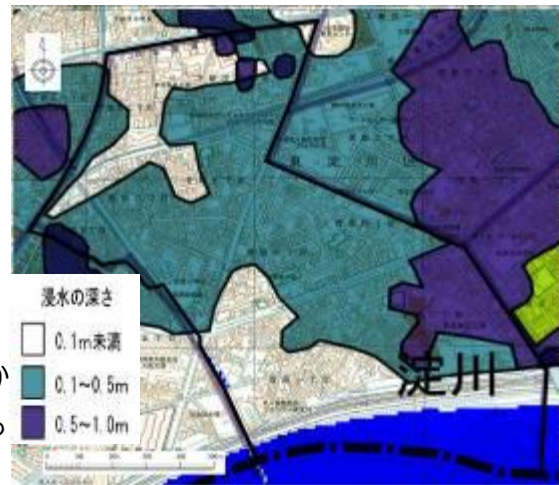
作図) ランドシステム研究所、岡本

図 内水氾濫予想区図

②神崎川・安威川 外水氾濫
 神崎川・安威川の外水氾濫予測では、本地域は、北部、南東部で1~2mの浸水が発生し、中央部で0.5m~1mなどの予測となっている。

③内水氾濫

内水氾濫予測図によれば、本地域は、南東部で0.5m~1.0mの浸水深がみられ、中部から北部にかけて、0.1m~0.5mの浸水となる区域がみられる。



作図) ランドシステム研究所、岡本

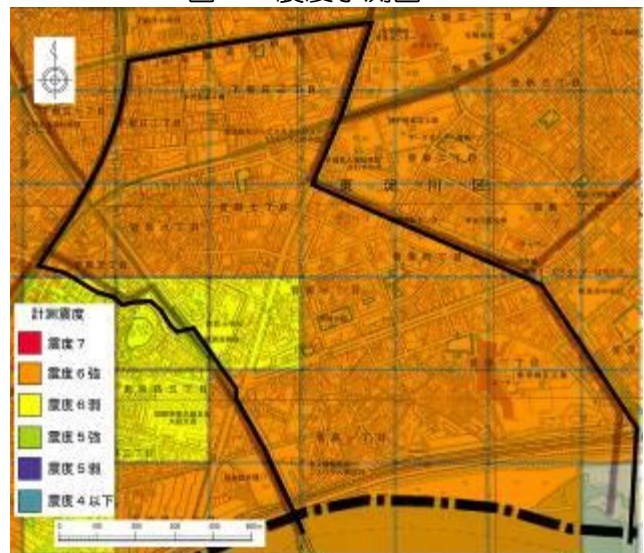
(2)地震予測

①震度予測

上町断層が活動した時の震度予測は、震度予測図によれば、本地域はほぼ全域が震度6強、一部で震度6弱の激しい揺れが発生するものと予測されている。



図 震度予測図



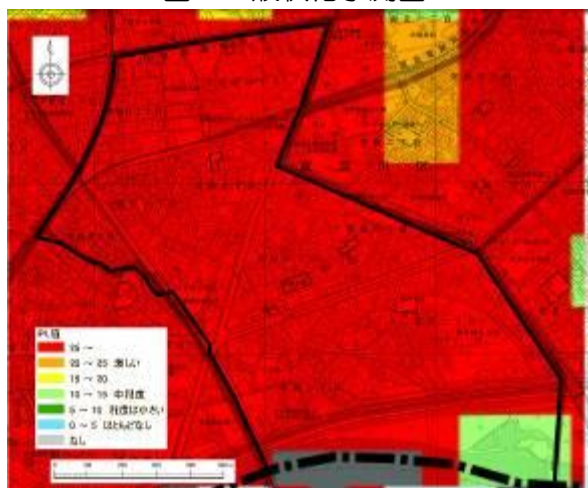
資料) 大阪府

②液状化

地盤の液状化はその土地の地下に堆積する砂層の分布や固結度、地下水位などの状況により大きく変化する。

本地域の液状化の危険性は、全域で高く、液状化が発生しやすいと予測されている地区が広がっている。

図 液状化予測図



資料) 大阪府

(3)南海トラフの巨大地震の予測

平成25年8月に、大阪府から発表された予測によれば、これらの地震が連動